

### 第3期みやぎ食と農の県民条例基本計画で目指す将来の姿（案）

#### 【食の将来像】

海・山・大地の豊かな恵みと東北の中心都市仙台を抱える強みが活かされ、県内外の消費者と生産者の相互理解が深まるとともに、食品産業等と連携した多彩な取組により、「食材王国みやぎ」としての市場評価が向上し、時代のニーズに対応した豊かな食が国内外で広く流通しています。

- 農村の魅力が多様な主体によって情報発信され、活発なC S A（地域支援型農業）や賑やかな直売所、企業研修での活用など多様な農業体験や農泊プログラムが展開されることで、人の交流が拡大している。
- 農業体験等が活発に行われ、児童・生徒の食や農業に対する関心が醸成されるとともに、県内外の消費者が、県産食材やその加工品へ愛着や誇りを抱きながら、食品ロスを意識した消費行動を取るなど、持続的な農業や食品産業を支える行動をとっている。
- 地域資源を活用した特産品や様々なサービスについて、地域商社の機能（マーケティングやリスクマネジメント等の視点）を採り入れた商品開発やペアリングの推進等によって他地域との差別化が図られ、消費者から支持されている。
- 農業と食品産業との連携強化により、国内外の多様な消費者ニーズを踏まえた商品が生まれ、農畜産物の付加価値が高まるバリューチェーンが構築され、本県の食産業が持続的に成長している。
- 食の外部化の進展やヴィーガンなど食の多様化に対応した付加価値の高い県産食材やその加工品が、多様な消費者の嗜好を捉えたプロモーションの展開により、国内外の消費者から高い評価を得ている。
- 県産食材等の評価の高まりを受け、国内外に販路が拡大するとともに、みやぎの食と食文化を目的とした観光客が増加し、地域経済を下支えしている。
- 農業者や食品製造業者等による生産工程管理や衛生管理等の取組が広まるとともに、放射性物質検査等の県産農林水産物の安全性評価が実施され、安全・安心な食料が供給されている。
- 家畜伝染病の発生や輸入の途絶等により、食料供給が途絶えることがないように、様々なリスクを見据えた食料供給体制が構築されている。

#### 【農業の将来像】

スマート農業先進県として、全国トップクラスの大区画農地やロボット技術等を活用した労働生産性の高い水田農業や畜産経営が展開されるとともに、園芸栽培に適した気候や立地条件を活かした園芸団地が各地に形成され、食品産業とのバリューチェーンの構築が進み、農業が地域経済を支える産業として発展しています。

- 農業経営の法人化・組織化が進み、高い経営者マインドを有する農業経営者のもと、人材確保や健全な経営継承など健全な新陳代謝により経営の安定性と持続性が図られている。また、求職者から就職先として選ばれる経営体となっている。
- 農家の子弟や非農家出身者の就農が促進され、意欲ある担い手が定着している。
- 女性農業者の経営参画が促進され、女性が生き生きと活動する農村社会が形成されている。
- 定年帰農者や高齢者、障がい者、外国人材、副業者等、農業への関わりを希望する多様な人材が、様々な立場で農業生産に携わっている。
- 園芸施設内の自動環境制御や水位センサーによる用水の自動管理、ドローンによる生育診断や薬剤散布、ロボットトラクター等による耕起や除草の自動化など、スマート農業技術の普及定着が図られ、効率的な生産が行われている。
- 気候変動に左右されにくい栽培技術や効率的な生産・飼養管理技術が確立され、広く普及・定着している。
- 農地の大区画整備や再整備、担い手への集約化が一層進み、土地利用型農業経営体が安定した

経営と生産を行っている。

- 先進的な施設園芸経営体が園芸作物の生産をリードするとともに、安定的な大規模露地園芸栽培が展開され、さらに、参入企業を中心とした大規模園芸拠点が誕生している。
- 需要に応じた売れる米づくりと水田をフルに活用した需要に応じた大豆・麦・飼料用米や収益性の高い園芸作物の生産が定着している。
- 優良種雌牛の確保による安定的な生産体制が整っていると同時に、地域の畜産・酪農の収益力が強化している。

### 【農村の将来像】

都市と農村の距離が近く、美しい風土や地域資源が豊富にある強みを活かし、郷土愛のある地域人材が外部の人材との協働により、多彩な“なりわい”を創出し、地域全体の所得が向上する経済の好循環が生まれ、関係人口や移住者に選ばれる持続可能な農村が実現しています。

- 地域資源を活用した6次産業化等の取組により、新たなビジネスが創出・展開されるなど、地域経済が活性化している。
- 多様化する移住希望者等の働き方・就業スタイルに対応した「なりわい」の創出・提供を可能にする地域の支援体制が整備されている。
- 稼いだおカネを地域内で循環させ、地域の富を形成する仕組みが創出され、それを財源として、生産者を含めた地域コミュニティが地域の課題を自ら解決しながら安心して暮らしていける環境を実現、維持している。
- 農村の活性化に携わる人材や関心が高い人材が、移住・定住対策窓口等を通して、農村地域へ通ったり、定住することで関係人口が拡大する。
- 環境保全型農業や野生鳥獣対策など、環境と調和した生産活動や保全活動が行われ、農業・農村の持つ多面的機能が維持・発揮されている。
- 防災重点ため池や農業水利施設等の整備・補修により、農業・農村の強靱化が図られ、地域防災力が強化されている。